

無視(ムシ)できない虫(ムシ)たち

木下順次 (千葉市)

日 時： 2010 年 7 月 11 日 (日) 13 時～15 時 天候：晴

参加者： 大人 26 名 子ども 29 名 指導員 26 名

担当指導員：山下美佐子・和仁道大・木下順次

梅雨の合間のお天気に、“虫”というテーマのためか、いつもより親子連れのお客さまがたくさん参加していただきました。トンボやバッタやチョウといったおなじみの虫たちに加えて、イモムシやシデムシなど一見嫌われものの虫や、オトシブミやハムシなどの普段あまり気にとめることない小さなムシたちなど。その姿形や行動など、じっくり観察してみれば様々な新しい発見があることに気がつきます。

明るい原っぱでムシの“追い込み作戦”

太陽の広場の原っぱの一角でみんなで輪になり、草の中に隠れているムシたちを輪の中心に敷いた白いビニールシートの方に追い込みます。小さなバッタやキリギリス、コオロギ、ハムシなど捕まえたムシたちをカップレンズに入れて種類の確認や、それぞれの体の構造、幼体と成体の違い等を観察しました。



暗い雑木林には森のお掃除屋さん



雑木林の中では、前日に、生肉を入れて土中にしかけておいたペットボトル製の捕虫トラップを取り出してみることに。数十匹入っていたムシのほとんどがシデムシ(幼虫・成虫)とアリだったため、最初は皆さん気味悪がっていましたが、森の中での分解者(または食物連鎖の最下位)としての役割を説明することで、少し見方を変えていただけようです。

谷津で見られる様々なムシたち

小さくて“虫目”にならないとなかなか見つからないクロウリハムシやマメコガネ、コナラの枝につくオトシブミの“ゆりかご”やその成虫…、カラムシにつくアカタテハの幼虫、よく見るとモンシロチョウとは模様の異なるスジグロシロチョウ…、イロハモミジに巣を作る小型スズメバチ…、葉蔭で休むオニヤンマとその脱皮殻…、お皿のような棚網を張るコクサグモ、かくれ帯を作るナガコガネグモ、子グモのために自らを餌とするヤマトコマチグモ…、等々。



様々な環境の中で様々な方法で生きる虫たちを観察することによって、今まで(それと知らずに)無視してきた虫たちや、また人間生活とのかかわりの中で益虫にも害虫にもみなしてきた虫たちに、これからは多少なりとも思いをはせていただけるようになったのではないかと思います。